

キヌサヤエンドウのハナアザミウマ防除対策

～ 除草による飛来防止効果 ～

1. はじめに

県中部の日高地域ではキヌサヤエンドウ(以下、キヌサヤ)の栽培が盛んである。近年、夏まき年内どり栽培においてガク枯れ(図1)や白ぶくれ症(図2)が多く発生し、品質低下の要因となっている。これらは、ハナアザミウマの食害や産卵が原因である。ハナアザミウマは、ほ場周辺にみられる雑草であるクズやセイタカアワダチソウの花に寄生し、キヌサヤほ場に飛来している。そこで、ほ場周辺雑草の除草によるハナアザミウマの飛来防止効果について検討したので報告する。

なお、キヌサヤほ場での防除対策については本誌134号(2019年7月)で紹介しているので、参照されたい。



図1 ガク枯れ



図2 白ぶくれ症

2. 材料と方法

1) 試験区

畦畔にセイタカアワダチソウの群落がみられるほ場について、一方のほ場を除草区、もう一方のほ場を無除草区とした。両ほ場とも2020年7月15日に畦畔の雑草を刈り払い機で除草し、除草区のみ、10月14日にも除草した。なお、7月、10月ともに除草時のセイタカアワダチソウの草丈は1m程度で、つぼみは認められなかった。

2) 青色粘着トラップによる誘殺数調査

10月7日に農業試験場内の2ほ場の畦畔に、青色粘着トラップ(商品名:ホリバー、粘着面10cm×21cm)を設置した。10月14日から1週間ごとにトラップを回収し、誘殺されたハナアザミウマ雌成虫の数を実体顕微鏡で調査した。

3. 結果と考察

除草区では、無除草区と比較してハナアザミウマの誘殺数が少なかった(図3)。また、無除草区では、セイタカアワダチソウが10月下旬(全く除草しない場合と同時期)に、通常より低い草丈で開花した。よって、無除草区ではハナアザミウマの生息場所が残存し、除草区ではハナアザミウマの生息場所が減少したと考えられた。

このことから、周辺雑草の除草はキヌサヤほ場へのハナアザミウマ飛来防止に効果があると考えられた。

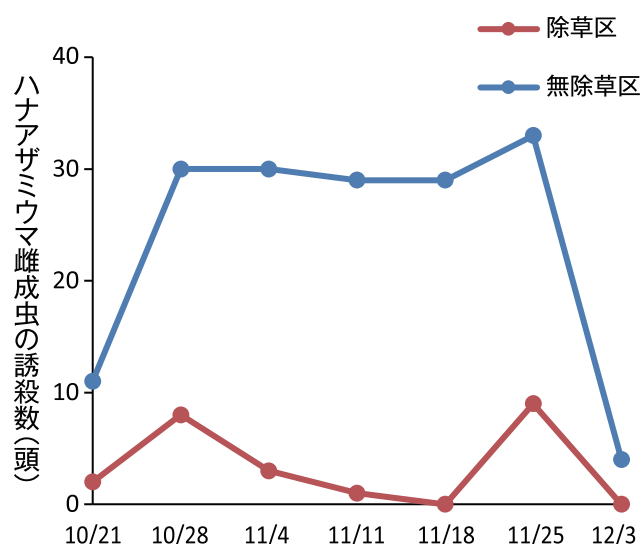


図3 除草試験におけるハナアザミウマ雌成虫の誘殺数

4. おわりに

ほ場周辺雑草を除草することで、ハナアザミウマの飛来数が減少することを確認した。しかし、雑草の除草だけではハナアザミウマ被害の軽減には不十分である。今後は、効果的な除草時期を検討するとともに、光反射マルチの設置等、他の技術との組み合わせで、防除効果の向上を目指していく。

(環境部 高岸香里)